



# モーツァルト室内管弦楽団 第129回定期演奏会

Mozart-Kammerorchester / 129. Regulärkonzert

〈創立40周年記念シリーズ〉第3回  
〈没後200年記念ハイドン・シリーズ〉第9回

## 2009年4月29日(水・祝) 午後2時 ■ いずみホール

Mittwoch, 29. April, 2009, 14:00Uhr. *Izumi Hall*, Osaka

- 主催：モーツァルト室内管弦楽団 <http://www.hi-ho.ne.jp/mozart/>、毎日新聞社
- 協賛：いずみホール〔財団法人 住友生命社会福祉事業団〕
- 後援：大阪府、大阪市、大阪商工会議所、毎日放送、スポーツニッポン新聞社
- マネジメント：大阪アーティスト協会 E-mail: [artists@gol.com](mailto:artists@gol.com)

〒530-0041 大阪市北区天神橋2-5-25-909 Tel 06-6135-0503  
<http://www.oaa1985.com>



モーツァルト室内管弦楽団 第129回定期演奏会

Mozart-Kammerorchester/129. Regulärkonzert

2009年4月29日(水・祝) 2:00pm. ●いずみホール

Mittwoch, 29. April, 2009. 14:00Uhr. ● *Izumi Hall*, Osaka

〈創立40周年記念シリーズ〉第3回

〈没後200年記念ハイドン・シリーズ〉第9回

ハイドン

J. Haydn

交響曲 第100番 ト長調 Hob.I-100《軍隊》

Sinfonie Nr.100 G-dur Hob.I-100 „Military“

- I. Adagio – Allegro
- II. Allegretto
- III. Menuetto : Moderato
- IV. Finale : Presto

モーツァルト

W. A. Mozart

ミサ曲 ハ短調 K.427より《ラウダムス・テ(主を讃えよ)》<sup>1)</sup>

„Laudamus te“ aus der Messe c-moll KV427 <sup>1)</sup>

《コジ・ファン・トゥッテ》K.588より

フィオルディリージのアリア《岩のように動かずに》<sup>1)</sup>

Fiordiligi's Arie „Come scoglio immoto resta“ aus der Oper „Cosi fan tutte“ KV588 <sup>1)</sup>

\* \* \*

ハイドン

J. Haydn

協奏交響曲 変ロ長調 Hob.I-105 <sup>2)</sup>

Concertante B-dur Hob.I-105 <sup>2)</sup>

- I. Allegro
- II. Andante
- III. Allegro con spirito

交響曲 第101番 ニ長調 Hob.I-101《時計》

Sinfonie Nr.101 D-dur Hob.I-101 „Die Uhr / The Clock“

- I. Adagio – Presto
- II. Andante
- III. Menuetto : Allegretto
- IV. Finale : Vivace

ソプラノ：櫻井孝子／Sopran : Takako Sakurai <sup>1)</sup>

ヴァイオリン：釋 伸司／Violine : Shinji Shaku <sup>2)</sup>

チェロ：日野俊介／Violoncello : Shunsuke Hino <sup>2)</sup>

オーボエ：中江暁子／Oboe : Akiko Nakae <sup>2)</sup>

ファゴット：佐伯利之／Fagott : Toshiyuki Saeki <sup>2)</sup>

管弦楽：モーツァルト室内管弦楽団／Orchester : Mozart-Kammerorchester

コンサートマスター：釋 伸司／Konzertmeister : Shinji Shaku

指揮：門 良一／Dirigent : Ryoichi Kado



門 良一 ● 指揮

Ryoichi Kado, Dirigent

1939年大阪生まれ。フルートを曾根亮一氏に、指揮法を青山政雄氏に師事。62年京都大学理学部卒業、67年同大学院修了。70年同志とともにモーツァルト室内管弦楽団を創立、常任指揮者となり現在に至る。87年、モーツァルトのピアノ協奏曲全27曲、交響曲全74曲の連続演奏完結に対し、モーツァルト室内管弦楽団とともに第5回藤堂音楽賞を受賞。

現在、NHK大阪文化センター、同神戸文化センター「モーツァルトを聴く」講師。京都産業大学教授。



櫻井孝子 ● ソプラノ

Takako Sakurai, Sopran

大阪芸術大学演奏学科声楽専攻卒業。在学中「フィガロの結婚」ケルビーノ、「魔笛」ダマーエⅡ、第80回フレッシュ・アーティスト・コンサート、卒業後、大阪芸術大学特別オペラ公演、「魔笛」ダマーエⅠ、「ヘンゼルとグレーテル」露の精、またオペレッタデビューである喜歌劇楽友協会第50回記念公演「マリツァ伯爵夫人」のマリツァ(タイトルロール)、第53回「こうもり」のロザリンデ、第54回「メリー・ウイドウ」のハンナ・クラヴァリエを演じる。また、高槻音楽家協会主催サロンコンサートにおいて「赤ずきん」の狼役で出演。日伊交歓ガラコンサートにて、ジョルジュ・ロールミと共演。また、Val di Sole(太陽の谷)コンサートにおいて、アンドレア・エレナ(テノール)、ステファノ・ズィカリ(ピアノ)と共演ほか、各種コンサートに多数出演。関西フィルハーモニー管弦楽団を始め、ハンガリーにてサヴァリア・シンフォニー・オーケストラ、2007年

には門 良一指揮モーツァルト室内管弦楽団の「モーツァルトをあなたに」公演にソリストとして出演の他、内外のオーケストラと協演。R.パラジョーラ、D.チャイン、V.スカレーラ、E.フルロッチ各氏のプライベートレッスンを、また、M.コレチッキ氏の公開、及びプライベートレッスンを受講。D.スカンダレッティ氏声楽特別レッスンを受講。第26回イタリア声楽コンクール金賞受賞。第18回飯塚新人音楽コンクール第2位入賞。現在、喜歌劇楽友協会、高槻音楽家協会各会員。



釋 伸司 ● ヴァイオリン

Shinji Shaku, Violine

京都芸術大学卒業。元レマン室内管弦楽団コンサートマスター。現在、いずみシンフォニエッタ大阪、マイハート弦楽四重奏団メンバー。京都フィルハーモニー室内合奏団客演コンサートマスター。室内アンサンブル・アッサンブラージュ主宰。バロックからロマン派、現代曲、ポピュラーに至るまでジャンルにとらわれないユニークなコンサートを全国的に展開。加えて、音楽講座やレクチャーコンサートの講師として幅広いファンを得ている。また室内楽、日本各地のオーケストラの客演首席奏者、レコーディング、落語家との共演等、様々な分野で高い評価を得て活躍している。



中江暁子 ● オーボエ

Akiko Nakae, Oboe

京都市立芸術大学卒業。同年、桐朋オーケストラ・アカデミーに入学。オーケストラ、室内楽を中心に研鑽を積む。修了後は東京を中心にフリー奏者として活動し、現在は大阪に拠点を置いて活動している。オーボエを伊賀上文子、故岩崎 勇、渡辺潤也、嶋崎耕三の各氏に師事。アンサンブル東風のメンバー。



日野俊介 ● チェロ

Shunsuke Hino, Violoncello

京都市立芸術大学卒業。同時に京都音楽協会賞受賞。神戸室内合奏団、大阪センチュリー交響楽団を経て現在は、いずみシンフォニエッタ大阪、モーツァルト室内管弦楽団等に参加しながらソロ、室内楽、オーケストラなどの活動をする。チェロを河野文昭、黒沼俊夫、上村 昇の各氏に、室内楽を梅原ひまり、岸邊百雄の各氏に師事。



佐伯利之 ● ファゴット

Toshiyuki Saeki, Fagott

京都市立芸術大学卒業。「YAMAHA新人演奏会」「厄崎新人演奏会」に出演。カルズコンサート、ドンナホールコンサート等に於いてソロリサイタル、また、神戸、明石等でジョイントリサイタルを開く他、数多くの室内楽、オーケストラ演奏に参加。卒業後大阪シンフォニカー交響楽団に約10年間在籍。宇治原明、光永武夫各氏に師事。

モーツァルト室内管弦楽団 / 出演メンバー

コンサートマスター ● 釋 伸司

第1ヴァイオリン	釋 伸司	川島 多美子	柳 瀬 史佳	淡島 宏枝
中 川 衛子		原田 潤一	麻里子	藤原 雄一
大西 秀朋		幣 晴代	南 出 信一	堺 温子
菊池 優理		池 内 美紀	南 出 公美	堀 由起
奥野 敬子	ヴィオラ	道 幸 明美	中 村 浩志	大西 裕司
北村 奈美		佐 份 利 祐子	大 江 有紀子	福 田 福 井 鈴
中野 瑞己		上 野 亮子	中 江 有紀子	福 井 丸 若 安紀
納 庄 麻里子		白 木 原 有子	中 江 有紀子	福 井 丸 若 安紀
第2ヴァイオリン	チェロ	日 野 俊 介	忽 那 博	丸 若 泉 純太郎
本 多 智子		仙 波 房 子	門 小夜子	山 縣 雅志
清 水 めぐみ			佐 伯 利之	

## ハイドンのロンドン旅行 その2

ハイドンをロンドンに招いたヴァイオリニスト兼興行師のザロモンは、実はモーツァルトにも声をかけていた。まずはハイドンを呼び(1790年)、翌年にあわよくばモーツァルトをもとを考えていたようだ。もしこの申し出にに応じていたらモーツァルトの人生も変わったかもしれないし、西洋音楽史も塗り替えられたかもしれない。それはともかく、ハイドンの出発に当たりザロモンもまじえたお別れの席で、モーツァルトは自分よりふた周りも年上の先輩の身を案じてこう述べた「パパ、私は心配なんです、最後のお別れをするみたいです。」それはわずか1年後に事実となるが、この世を去ったのはモーツァルトのほうがであった。

ハイドンは1回目のロンドン滞在中に、知人の銀行家ブフベルク(モーツァルトの借金の相手として有名)からモーツァルトの訃報を知らされる。「彼が死んだなんてとても信じられません。のちの世の人々は、あれほどの才能の人を百年の間再び見ることができないに違いありません。」(ゲンツィンガー夫人宛の手紙)。ハイドンはその折のロンドン滞在中に書いた6曲の交響曲の内の1曲においてモーツァルトを偲んだ。交響曲第98番の第2楽章(この曲の出だしが英国国歌に似ているので驚くが)の中間部分で、「ジュピター交響曲」の第2楽章にそっくりの音符を書いている(音型が似ているだけで音楽は全く違うのだが)。この交響曲はモーツァルトの死の3ヶ月後の1792年3月2日に初演された。

さて、ハイドンを迎えて行われた「ザロモン・コンサート」には、強力なライバルがいた。かつてザロモン自身も在籍した「プロフェッショナル・コンサート」である。2年目のシーズンには、ハイドンの昔の弟子であるイグナツ・ブレイエルを指揮者に迎えてハイドンに対抗しようとした。ブレイエルはのちにパリで楽譜出版やピアノ製造で名を成すのだが、このときは師のハイドンに恭順の意を表し、二つのコンサートは互いに刺激しあってともに成功したという。

大成功に気を良くしたハイドンは、一時はロンドン永住を考えたほどであったというが、1年をおいて2回目のロンドン旅行を行った。1794年のシーズンは前回と同じくハノーヴァー・スクエアにおいてコンサートが行われたが、このために第99~101番の3曲の交響曲が作曲された。翌1795年になって、フランス革命による欧州本土の政情不安のため、優秀な演奏家を呼べなくなるという事情が生じ、ザロモンは「ザロモン・コンサート」を中止して、会場をオペラ座に移し新たに「オペラ・コンサート」の名のもとに再開することにした。そのため、イギリス中の演奏家を総動員し、デューセックやヴィオッティといった著名な演奏家をメンバーに加えたのである。「オペラ・コンサート」は宮廷からも認知され、ハイドンの新作交響曲3曲(第102~104番)を中心演目に大成功を収めた。ハイドンは自作品が歓迎された上に、大金を手にし、生涯で最も幸福な日々をロンドンで過ごしたのであった。

### ハイドン：交響曲 第100番 ト長調《軍隊》

第88番(有名だが名前がない)、第92番《オックスフォード》、第94番《驚愕》に続く、ハイドン独特の明るいつ長調の交響曲の名曲である。第2楽章に当時流行したトルコ軍隊風の打楽器が使われ、またトランペットの起床ラッパのようなソロもあるところから、《軍隊》と呼ばれている。第2楽章の親しみやすいメロディは、ハイドンがナポリ王のために作曲したりラ・オルガニザータ協奏曲第3番から取られている(リラ・オルガニザータというのはハーディ・ガーディ(英)、ライエル(独)とも呼ばれ、弦楽器と手廻しオルガンの合いの子のような大道芸の楽器である)。ロンドンではこの楽章が大人気で、毎回アンコールされたという。

### モーツァルト：ミサ曲 ハ短調より《ラウダームス・テ(主を讃えよ)》

いわゆる《ハ短調ミサ》の作曲は、誰からの注文でもなく、モーツァルト自身がコンスタンツェとの結婚を記念して書きはじめるという、18世紀としては全く異例の動機によるものだが、そのせいか未完に終わっている。この歌はミサの第3曲にあたるソプラノのためのアリアで、コロラトゥーラの技巧がちりばめられたはつらつとした名曲である。

### モーツァルト：《コジ・ファン・トゥッテ》より《岩のように動かずに》

姉妹フィオルディリーゼの歌う、このオペラで最も有名なアリア。妹の恋人が変装して自分に言い寄るのを敢然とはねのける勇ましい歌。遠くにアマゾネスの女兵士の吹くラッパが聴こえる。

### ハイドン：協奏交響曲 変ロ長調

第1回ロンドン旅行に際して作曲された、ハイドン唯一の協奏交響曲。ヴァイオリン、チェロ、オーボエ、ファゴットの4つがソロ楽器であり、ザロモンをはじめとするオーケストラのトップ奏者が受け持った。ヴァイオリンとチェロは高度な技巧を要するソロパートであるが、オーボエとファゴットはオーケストラのパートも兼ねるように書かれ、幾分地味な扱いである。全曲がハイドン独特のおおらかでのびのびとした音楽となっている。終楽章のヴァイオリンによるレシタティーヴォ風のところは若いときの作品、交響曲第7番《昼》を懐かしんでのものであろうか。

### ハイドン：交響曲 第101番 二長調《時計》

ハイドンの100数曲の交響曲の内、最も有名なものであろう。《時計》の名は第2楽章冒頭の規則正しい伴奏音型によるが、この曲のスケールの大きさはそんなかわいらしいニックネームをはるかに超えている。特にフィナーレ後半、弦の各パートがピアノニッシモでフーガ風に主題を展開していくところは聴きどころであるが、これはモーツァルトの《ジュピター》を意識してのものではないだろうか。このような対位法的手法は元はといえばハイドンがヘンデル様式を取り入れて弦楽四重奏曲で始めたのであり、モーツァルトはそれをハイドンから学んだのである。ここにも二人のうるわしい関係が聴き取れるように思う。

## 『ハイドンを忘れてもらっては困ります』

門 良一／モーツァルト室内管弦楽団による没後200年記念〈ハイドン・シリーズ〉  
全10回・記録&予定

第1回 2007年7月15日 ムラマツ・リサイタルホール  
定期サロンコンサート〈クライネ・モーツァルト〉第74回例会

ハイドン／交響曲 第6番 二長調 Hob. I-6 〈朝〉  
ハイドン／交響曲 第7番 八長調 Hob. I-7 〈昼〉  
ハイドン／ヴァイオリン協奏曲 第1番 八長調  
ハイドン／交響曲 第8番 二長調 Hob. I-8 〈晩〉  
ヴァイオリン：菊本 恭子

第2回 2007年9月30日 いずみホール  
第121回定期演奏会〈モーツァルトとハイドン〉その1

モーツァルト／交響曲 第39番 変ホ長調 K.543  
ハイドン／トランペット協奏曲 変ホ長調 Hob. VIIe-1  
モーツァルト／《後宮よりの誘拐》K.384より  
コンスタンツェのアリア《私は恋をしていました》  
ロッシーニ／《セヴィリヤの理髪師》より  
ロジーナのアリア《今の歌声は》  
ハイドン／交響曲 第103番 変ホ長調 Hob. I-103  
《太鼓連打》

トランペット：大西 由起、ソプラノ：成毛 未来

第3回 2007年12月2日 いずみホール  
第122回定期演奏会

ハイドン／オラトリオ《四季》Hob. XXI-3 (全曲)  
ハンネ(ソプラノ)：木村能里子  
ルーカス(テノール)：西垣 俊朗  
シモン(バス)：井原 秀人  
合唱：モーツァルト記念合唱団(合唱指揮：益子 務)

第4回 2008年3月2日 ムラマツ・リサイタルホール  
定期サロンコンサート〈クライネ・モーツァルト〉第75回例会  
〈シュトルム・ウント・ドラック(疾風怒濤)時代〉

ハイドン／交響曲 第44番 ホ短調 Hob. I-44 〈哀悼〉  
ハイドン／チェロ協奏曲 第1番 八長調 Hob. VIIb-1  
ハイドン／交響曲 第45番 嬰へ短調 Hob. I-45 〈告別〉  
チェロ：山本 彩子

第5回 2008年6月28日 ムラマツ・リサイタルホール  
定期サロンコンサート〈クライネ・モーツァルト〉第76回例会  
〈モーツァルトとハイドン〉その2(ハイドンとモーツァルトのホルン三昧)

ハイドン／交響曲 第31番 二長調 Hob. I-31 〈ホルン信号〉  
シュターミッツ／フルート協奏曲 二長調  
モーツァルト／ディヴェルティメント(フルート、オーボエ、  
ファゴット、4つのホルンと弦楽のための) 二長調 K.131  
フルート：大江 浩志  
ホルン：垣本 昌芳、垣本奈緒子、佐藤 明美、小椋 順二

第6回 2008年9月27日 いずみホール  
第125回定期演奏会〈モーツァルトとハイドン〉その3

モーツァルト／交響曲 第36番 八長調 K.425 〈リンツ〉  
ハイドン／ピアノ協奏曲 二長調 Hob. XVIII-11  
モーツァルト／コンサートアリア《私は行く、でもどこへ?》K.583  
モーツァルト／コンサートアリア《偉大な魂と高貴な心》K.578  
モーツァルト／《後宮よりの誘拐》K.384より コンスタンツェのアリア《あらゆる苦しみ》  
ハイドン／交響曲 第96番 二長調 Hob. I-96 〈奇蹟〉  
ピアノ：小田切美穂  
ソプラノ：西田真由子

第7回 2008年11月8日 いずみホール  
第126回定期演奏会

ハイドン／オラトリオ《天地創造》Hob. XXI-2 (全曲)  
天使ガブリエル、イヴ(ソプラノ)：木村能里子  
天使ウリエル(テノール)：西垣 俊朗  
天使ラファエル、アダム(バス)：松下 雅人  
合唱：モーツァルト記念合唱団(合唱指揮：益子 務)

第8回 2009年3月28日 いずみホール  
第128回定期演奏会

ハイドン／交響曲 第92番 二長調 Hob. I-92 〈オックスフォード〉  
ハイドン／チェロ協奏曲 第2番 二長調 Hob. VIIb-2  
ハイドン／交響曲 第94番 二長調 Hob. I-94 〈驚愕〉  
チェロ：河野 文昭

第9回 2009年4月29日 いずみホール  
第129回定期演奏会

ハイドン／交響曲 第100番 二長調 Hob. I-88 〈軍隊〉  
モーツァルト／ハ短調ミサ K.427より《主を讃えよ》  
モーツァルト／《コジ・ファン・トゥッテ》K.588より  
フィオルディリージのアリア《岩のように動かずに》  
ハイドン／協奏交響曲 変ロ長調 Hob. I-105  
ハイドン／交響曲 第101番 二長調 Hob. I-101 〈時計〉  
ソプラノ：櫻井 孝子  
ヴァイオリン：釋 伸司  
チェロ：日野 俊介  
オーボエ：中江 暁子  
ファゴット：佐伯 利之

第10回(アンコール公演) 2009年12月13日 いずみホール  
第132回定期演奏会

ハイドン／オラトリオ《四季》Hob. XXI-3 (全曲)  
ハンネ(ソプラノ)：木村能里子  
ルーカス(テノール)：西垣 俊朗  
シモン(バス)：田中 勉  
合唱：モーツァルト記念合唱団(合唱指揮：益子 務)

会 長 岡 本 道 雄 (京 都 大 学 名 譽 教 授)  
理 事 大 西 正 文 (大 阪 ガ ス 株 式 会 社 特 別 社 友) 谷 口 安 平 (京 都 大 学 名 譽 教 授)  
森 井 清 二 (関 西 電 力 株 式 会 社 顧 問) 吉 野 泰 生 (住 友 生 命 保 険 相 互 会 社 会 長)  
(50音順)  
顧 問 橋 下 徹 (大 阪 府 知 事 : 申 請 中) 平 松 邦 夫 (大 阪 市 長)  
伊 藤 郁 太 郎 (大 阪 市 立 東 洋 陶 磁 美 術 館 館 長) 梅 原 猛 (国 際 日 本 文 化 研 究 セ ン タ ー 顧 問)

法人会員 (50音順)

荒川化学工業	サントリーホールディングス	大同ケミカルエンジニアリング	丸	紅
井上冷熱	住友金属工業	高松建設	丸山サービス	
大阪ガス	住友精密工業	日本通運京都旅行支店	三井住友カード	
関西電力	住友生命保険	濱田プレス工業	ワコー	
きんでん	住友倉庫	林六	*	
阪野商店	ダイキン工業	福山製紙	日本セルフ	

個人会員 (入会順、敬称略)

松井繁一	安藤邦洋	藤原啓助	内藤芳美	得田栄蔵	谷口勝昭
深田晴世	橋本太三雄	馬場明和	小西信一郎	菱谷勝次郎	完倉正信
河野幹雄	阿部由美子	阪野俊一	佐野廣子	足立宣治	野口祐三
河野奈津子	中川泰幸	森明子	神林恒道	東武次郎	野口外志子
福岡隆子	石上豊子	宮川泰济	岡野昌樹	竹林大	森本武
梅原一哲	村本孝夫	和田暁夫	岡野恵津子	中谷庄八	小山浩
石本三千也	松本幸道	桑名孝子	杉浦和子	豊田紘生	野原清秀
田村真也	笹川忠士	石光正男	脇田修	奥野哲久	大西理都子
竹村治彦	緒林桂子	松枝正明	多屋貞男	平岡龍人	堀正二
岸田克己	碓井昭彦	松枝多加子	野村透	平岡禮子	中野勇
梅村博也	碓井みち子	光成博次	佐野雅祥	大西勇	松井基純
屋良記佐治	長井重龜	植田史子	今井安男	飛田薫	松井香代子
國友正和	岸田多門	高杉方宏	玉手隆子	飯田祐子	山本春子
梅田文一	能田豊	川島弘章	野崎志朗	森野多開	山本道子
稲垣千代子	森内達治	川島啓助	橋本靖昭	宮井芳子	和葉嘉夫
浮田俊太郎	宮井茂治	坂本緯子	冠大五	塩脇昭司	大磯隆一
荻野伊都子	祐野尚子	中井武司	有賀照雄	塩脇祥子	中村多美子
桑山弘	金定秀光	中井佐和子	佐野哲郎	一木晃	細井提吉
三谷郁子	金定嘉也子	西森文彦	小柳陽一	岩崎弘一	大谷弘枝
田中喬	中條澄	岸田孝之助	服部盛隆	河濑清子	溝谷昭夫
天野康英	中嶋允子	豊田成子	田中四郎	佐竹時子	原喜代志
三浦信一郎	福岡昭吉	切畑敦詞	村西良彦	千宗守	大原清司
水島敬夫	山本次郎	中東富佐子	鳥村猛	荒木陽子	大原典子
渡辺優子	菅正徳	金盛琢志	河原恭子	宮崎悦朗	伊藤久栄
平川美津子	日高穂	三石武男	松井とも子	栗原順子	福谷巖

会 費・個人会員につきましては年会費1口2万円です。

・法人会員につきましては年会費1口10万円です。

(有効期間は入会時より1年間です。)

随時ご入会いただけます。

会員の特典・年間6回の自主公演にご招待致します。(1口に付き個人各1枚、法人各5枚)

・ご同伴者は10%割引となります。

・関連演奏会のご案内又はご優待を致します。

・定期演奏会プログラムにご芳名を記載させていただきます。

・会報「ディヴェルティメント」をお送り致します。